

事業計画書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 めふコミュニティーlabo

1 事業種別	行政提案型
※行政提案型 事業テーマ	(事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入) 公共空間(阪急宝塚駅～宝塚南口駅)を活用した、多様な活動 がうまれる持続可能なまちづくり
2 事業名	宝塚 kimono 回遊プロジェクト
3 事業を行おうとした動機・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺から南口にかけては通行量が多い一方で、滞在や交流が生まれにくい ・ 公共空間が十分に活用されておらず、「通過する場所」となっている ・ 地域に存在する文化資源（着物・表現活動等）が活かしきれていない ・ 温泉街エリアにおいては利用が減少し、にぎわいが失われつつある ・ 地域活動が単発で終わりやすく、継続性に課題がある <p>河川敷や宝塚ホテルの前の花のみち等美しい街並みを持つ宝塚。とくに河川敷にはゆったりとした空間が流れている。着物というツールを通して、多世代や多国籍、様々な方が楽しめる空間にすることでより深く宝塚の魅力が伝わるのではないかな。</p>

4 事業を行う目的と期待される効果

※審査基準のうち「効果の広域性」「独創性」「継続性」が判断できる内容を含めて記載してください。

本事業は、宝塚駅から宝塚南口にかけての公共空間を活用し、誰もが滞在・交流・表現できる「回遊型のまちの使い方」を創出することを目的とする。

地域に眠る着物や文化資源を活かしながら、単発のイベントではなく、継続的に人の流れと関係性が生まれる仕組みづくりを目指す。

■期待される効果

- ・着物体験を通じた非日常的な魅力の創出により、国内外からの来訪動機を高め、外国人観光客の誘致につなげる
- ・公共空間における滞在時間の増加および回遊性の向上
- ・温泉街エリアへの来訪機会の創出と認知向上
- ・SNS 等での発信促進による認知拡大と継続的な来訪の促進
- ・地域住民および来訪者の交流機会の創出
- ・文化活動の活性化および担い手の発掘

5 申請までの検討経過

令和 7 年度：「まちを楽しくするまちづくりワークショップ」にてアイデア創出

令和 8 年度：令和 8 年度開催に向けて市街地整備課と協議

6 事業の内容

※実施時期、場所、回数、参加予定人員等を含めて具体的に記載してください。

本事業では、公共空間を活用した回遊型プログラムを実施する。

時期 秋頃開催予定

回数 1回

参加予定人数 500人

① 着物の循環活用

地域から不要となった着物を回収し、参加者が自由に着付けやアレンジを楽しめる体験を提供する。

② まちなか回遊の創出

宝塚駅から花の道、文化施設、河川敷、宝塚南口、温泉街エリアをつなぐ回遊動線を設計し、歩きながら写真撮影や交流を楽しむ機会を創出する。

③ 公共空間における滞在機能の創出

河川敷等において、誰もが自由に過ごせる空間をつくり、「滞在できるまち」の実現を目指す。

④ 表現活動の場の提供

文化施設において、学生や地域住民が音楽・ダンス等を自由に表現できる場を設け、多様な活動が生まれる環境を整える。

⑤ 温泉街エリアの活用と再生のきっかけづくり

利用が減少している温泉街エリアを回遊ルートに組み込むことで人の流れを生み出す。簡易的な体験コンテンツの導入を検討し、現状に応じた無理のない形でにぎわい創出を図る。

- ・公共空間を「通過」から「滞在・交流・表現」の場へと転換する点
- ・年齢や属性を問わない多世代参加型の取り組み
- ・着物という地域資源を循環させる持続可能な仕組み
- ・文化（着物・表現）と日常（散策・滞在）を融合させた新たな体験の創出
- ・回遊によって温泉街を含むエリア全体の価値を再発見する点

本事業は単発で終わらせず、以下の仕組みにより継続的な展開を目指す。

- ・着物の回収と活用を地域内で循環させる仕組みの構築
- ・学生や地域団体と連携した継続的な参加体制の形成
- ・回遊ルートの可視化（マップや SNS 等）による日常利用の促進
- ・定期開催を視野に入れた運営

また、宝塚ゆかりの 手塚治虫 の生誕 100 周年に向けた機運醸成の第一歩として、段階的な発展を目指す。さらに将来的には、温泉資源を活かした滞在型コンテンツへの展開も視野に入れる。

7 市の担当課との事前協議の経過（事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入）

令和7年度：「まちを楽しくするまちづくりワークショップ」にてアイデア創出

令和8年度

4月8日：補助金の概要説明を受ける。申請の仕方についても詳しく説明して頂く

4月27日：開催に向けて打合せを行い、内容の協議実施

8 実施する安全対策

- ・混雑が想定される箇所（着付け体験場所、撮影スポット等）にはスタッフを配置し、人数制限や動線誘導を行う
- ・着物着用時の転倒防止のため、履物や歩行について事前に注意事項を説明する

- ・歩行者や自転車の通行を妨げない動線設計とし、滞留箇所には注意事項を説明する

- ・運営スタッフ間で事前に役割分担及び緊急時対応フローを共有する
- ・緊急時の連絡体制（責任者・救急・警察等）を明確化する
- ・保険(イベント保険など)への加入を検討する